

「イッセンアツカイ」の重要な伝達より、 社員管理が優先なの!?

9月16日、早朝より新幹線の運行において「小田原駅下り一線扱い」という異常時の運転取り扱いが行われました。

この取り扱いは、本来駅を通過する列車が、駅に一旦停車してから発車するものです。この駅では停車してもドアは開扉せず旅客の乗降は行われません。

こういった異常時の取り扱いが早朝より行われていましたが、631Aを担当した車掌は、その内容を知らされず誤ってドアを扱わない駅でドアを開扉してしまいました。

後日、訓練において管理者が説明しているのは、同じクルー、運転士が打合せをすれば防げた問題だと言っています。当該の車掌は見習いが終わって間もない車掌で「一線扱い」の意味が理解できていなかったと聞きます。

本人にとっては「イッセンアツカイ」という宇宙語にも聞こえる言葉が理解できないまま乗務していたということになります。会社は、現場の乗務員の責任を問いますが、乗務員の教育と確認においてまだまだ理解できていないことがあったということではないでしょうか。

異常時の列車運行より社員管理が優先なの!?

当日、乗務点呼が行われた大阪第二運輸所の当直で管理者からは、異常時の「一線扱い」実施の伝達は行われず、伝えられたのは「私物携帯電話の予備勤務時間中の使用」についてでした。勤務時間中の使用は禁止されていますが、当日の列車運行の重要な取り扱いについて伝達しなかったこと自体が問題なのではないでしょうか。隣の大阪第一運輸所の点呼では営業科長自らが伝達していたそうです。

現場の社員に責任や管理を強要する会社のやり方はおかしくないでしょうか？